



藍染めで日本とチェコを結ぶ～ユネスコ無形文化遺産登録決定に寄せて

© 2018年12月13日 2018年12月14日 駐日チェコ共和国大使館 メイド・イン・チェコ

✕ ポスト B! ブックマーク 0 LINE で送る

先月、チェコを含むヨーロッパの藍染め技術が、ついにユネスコ無形文化遺産に正式に登録されました。チェコ、スロバキア、ドイツ、オーストリア、ハンガリーによる国境を越えた共同申請が受理されたものです。

今回は日本でチェコの藍染め技術を紹介しているViolka（ヴィオルカ）代表の小川さんに寄稿いただきました。

「藍染め」ユネスコ無形文化遺産に決定

国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）の政府間委員会は、11月28日、「藍染め ヨーロッパにおける防染ブロックプリントとインディゴ染色」を無形文化遺産に登録することを決めました。これは2017年3月にチェコ共和国を含む5か国（オーストリア、チェコ、ドイツ、ハンガリー、スロヴァキア）が共同で提案していたものです。

日本から提案された「来訪神」も29日午前、無形文化遺産に登録が決まり、翌日、新聞などで大きく報道されましたが、「藍染め」は一足早く前日の28日午前に登録が決定されました（日本時間では28日夜）。SNS上で藍染め工房をはじめ、チェコ文化省、今回の登録に尽力した機関、そして報道各社が次々に登録決定を知らせる様子をリアルタイムで見て、登録のよる喜びを共有でき、とてもうれしく感じました。

ヨーロッパにおける藍染めとは

藍染めは、古代から広く世界各地で行われてきた染色技法ですが、今回無形文化遺産に登録された「ヨーロッパの藍染め」は、技法的には型染めの一つで、木製あるいは金属製の凸版の版木で布地に防染剤を置いたのち、藍の染料槽に布を浸すことで、防染した部分の地の白色が残り、模様が出来出されるというものです。職人たちは、現在でも古いものでは300年前の版木を使っています。模様は一般的なものほか、キリスト教のモチーフや地域の動植物を表現したものなど様々です。

現在、「藍染め」は各国の、主に小規模な家族経営の工房において製造されています。モーリヤスの首都、ポートルイスで開かれたユネスコ政府間委員会は「それぞれの工房が代々受け継いできた19世紀にさかのぼる記録を現在に至るまで守り、また実践を通し伝えている」と評価しました。

チェコの藍染めとの出会い

日本でチェコの藍染めを紹介しはじめて、5年ほどが過ぎました。はじめて藍染めと出会ったのは90年代末、プラハに住んでいた頃のことです。偶然、藍染めの反物を近所の仕立屋のウィンドウで見かけ、その中にどこかアジアに通じるものを感じてとても懐かしく思ったことをよく覚えています。はじめて知った「藍染め」の存在について調べはじめると、チェコで操業しているのはたった2軒の工房のみであるということがわかり、その風前の灯火のような状態に、少なからずショックを受けました。



藍染めを作る人たち

現在も操業するダンジゲル家とヨフ家の2軒の工房は、いずれもモラヴィアにあり、創業者から数えて3代～5代目の職人が藍染めの伝統を守っています（創業者が別の一族から工房を引き継いだダンジゲル家は、10代以上さかのぼることができる）。工房で働く人は、職人をはじめとしてみな家族や親戚関係の人たちがほとんどで、性別にかかわらず、家族、親戚一同が協力してそれぞれの役割を果たすという昔ながらの家族経営をしています。

工房では、静かに黙々と布に版木で防染剤を置き、ゆっくりと正確に深い青色の染料槽に何度も布を浸す様子が、長い時間が凝縮されたような特別な時間の流れを感じます。ふたつの工房も、家業に誇りを持ち、そして深い愛情を注いでいます。何世代にもわたって受け継がれてきた技術のみならず、受け継がれている心や精神といったものもまた、失われてはいけない真の財産と言えるものではないでしょうか。



ヨフさんとガブリエラさん 2015年春 ヨフさんが手にしているのはトンボ柄の型で、日本の武士が好んで武器のデザインに使ったことをご存知でした

朗報もありました。工房の最年少、ヨフ一族のガブリエラさんと会ったのは、2015年春のことでした。大叔父のフランチェク・ヨフさんより技術を伝えられ始めたこと紹介されました。以前は違う仕事に就いたこともありますが、工房に戻って仕事を手伝い始め、現在も藍染めの技術を学んでいます。新しい世代の登場はとてもうれしく、これからも続く伝統には、新しい風も吹き込まれてゆくでしょう。



ミチカさん 工房で仕事をはじめ30年以上になるベテラン



左からイヴァさん、筆者、イトカさん ヴィオルカと工房との窓口を務めてくださっています

伝統継承の後押しを

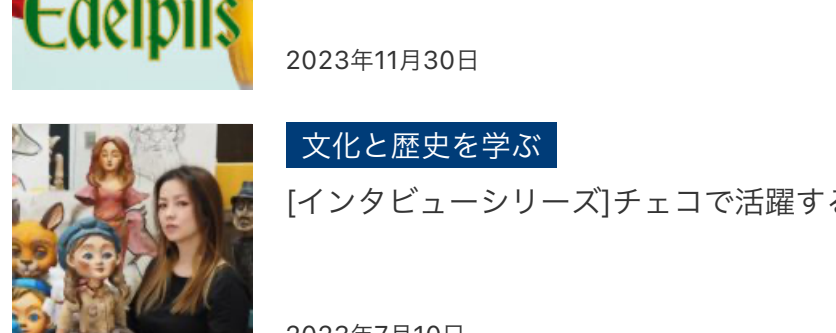
今回の登録は、「藍染め」の価値が国際的にも認められたという大きな意味を持ちますが、残念ながら工房が2軒だけになっている現状は、すぐには変えられません。しかしグローバル化により均一化されたものが溢れている今、多くの地域や、民族の手仕事に注目が集まっています。そしてグローバル化の時代だからこそ、それぞれの手仕事が、国を越えて広がる可能性も大きいと思います。

私の主宰するヴィオルカでは、伝統あるチェコの藍染めを日本人の視点で見つめ直し、今の時代に生かすことに取り組んでいます。この活動が藍染め工房と日本人たちを結び、伝統技術の継承に少しでも寄与できるよう、これからも活動を続けて行きたいと思っています。

小川里枝：おがわりえ

ヴィオルカ主宰。高崎市美術館が姉妹都市ブルゼニウ市の協力で開催した「ボヘミアガラスの100年」展を学芸員として担当し、チェコの芸術・文化に出会う。その後4年間滞在したプラハでは、カレル大でチェコ語やチェコ美術を学ぶと同時に、各地の美術・博物館や作家を訪ねる。2014年ヴィオルカを設立し、藍染めをはじめとするチェコの工芸品を扱いながら、チェコの工芸や文化を日本に伝える活動を開始する。美術関係の翻訳にも携わっている。

◇ヴィオルカHP◇
<https://www.violka.jp/>



✕ ポスト B! ブックマーク 0 LINE で送る

この記事を書いた人

駐日チェコ共和国大使館
駐日チェコ共和国大使館は、日本においてチェコ共和国を代表する機関として位置付けられています。
ビザ取得手続きや証明書類サポートする領事部、日本とチェコの政治情勢を扱う政務部、経済・ビジネス面での両国間の発展を手助けする経済・商務部、文化活動を推進する文化館などがひとつのチームとして、チェコと日本の架け橋となって活動しています。
大使館のホームページではイベントレポート、事務手続きや申請関連のお知らせがご覧いただけます。また、フェイスブックのオフィシャルページでは、最新情報やチェコ関連情報を随時発信しています。ぜひチェックしてみてください。
[日本におけるチェコビジネス年HP](#)
担当カテゴリ： [チェコグルメ](#)、[チェコで学ぶ](#)、[チェコを学ぶ](#)、[メイド・イン・チェコ](#)、[こぼれ話](#)

関連記事



このサイトについて

チェコが大好きな方も、興味はあるけれどまだあまりチェコのことをご存じでない方も、チェコ共和国公式ブログへようこそ！

チェコ政府観光局、チェコ共和国大使館、チェコセンター東京による共同プロジェクトのこのブログでは、中級・小さな国・チェコ共和国についての情報を皆様簡単に得られるよう、さまざまな情報を掲載していきます。

[詳細を見る](#)

サイト内を検索

検索 ... 検索

最新の投稿

- こぼれ話**
チェコ共和国オフィシャルブログ閉鎖のお知らせ
2024年4月19日
- チェコグルメ**
【チェコフェススペシャルサポーター】おいしいの技術と想いでつながるチェコとサッポロビール
2023年11月30日
- 文化と歴史を学ぶ**
【インタビューシリーズ】チェコで活躍する日本人第五弾～人形作家/人形舞台美術家 林由美さん～
2023年7月10日
- 文化と歴史を学ぶ**
【インタビューシリーズ】チェコで活躍する日本人第四弾～バレエダンサー 藤井彩夏さん～
2023年4月14日
- チェコで学ぶ、チェコを学ぶ**
チェコに住む大学生のインターン体験記&チェコ留学記【後編】
2023年4月8日

[Tweets by JpCzechRepublic](#)

月別アーカイブ

月を選択

タグ

- #チェコ鉄道旅行 #飲み物 #ビール #コッフォラ #絵本 #アールヌーヴォー #アート #クルテク #もぐらくん #木村有子 #翻訳 #展覧会 #文化交流 #大相撲 #公共交通機関 #バス #地下鉄 #ブルチャーク #おもちゃ #アルフォンス・ムハ #トラム #両替 #チェココルナ #チェコ #果物 #チェコ鉄道 #鉄道旅行 #チェコ料理 #プラハ本駅 #チェコ語 #井筒大会 #チェコ製品 #チェコの建築 #陶器 #サマースクール #奨学金 #通貨 #お土産 #カレルチャペック #チェコ文学 #プラハ #中央ボヘミア地方 #チェコ共和国 #観るまでのお楽しみ #チェコ列車を目撃せよ